

公民科（政治・経済）学習指導案

指導日時 令和5年12月1日（金）5校時

指導学級 3年4組 26名

指導場所 3年4組教室

指導者 教諭 梅原 渉

1 単元名

これからの社会保障のあり方

（実教出版『高校政治・経済 新訂版』 第3編「現代社会の諸課題」より）

2 単元の目標

- ・既習事項である社会保障の4つの柱について復習し、公的扶助の位置づけを確認する。
- ・諸資料を活用し、現代の日本が抱える社会保障の課題を正確に捉えることができる。
- ・公的扶助の意義を理解した上で、所得保障や就労支援の必要性を理解することができる。
- ・勤労福祉の実現のために必要な取り組みについて自分なりの考えをまとめることができる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
社会保障制度に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取っている。	社会保障制度に着目して、自ら設定した課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	社会保障制度について、よりよい社会の実現のために、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 単元について

(1) 生徒観

対象となる4組は文系クラスで政治・経済を受講している生徒は26名である。（男子15名女子11名）公民の学習に関しては、1年次に現代社会を履修しており、政治・経済に関する学習は初めてではない。

比較的落ち着きがあり授業中は活発に発言するなど、全体として積極的に授業に参加する態度がある。また、男女の分け隔てなく活発に議論をする雰囲気があり、グループ学習やペアワークを通して主体的・探究的に学習を進めることができる。

授業アンケートの結果を見ると、政治・経済に「わかりやすさ」を感じている生徒と政治・経済に「関心」をもっている生徒の割合には相関関係があることから、内発的な興味・関心を持つことができた生徒ほど積極的に授業に参加し、知識が定着している様子が見える。また、学習に取り組むやすい授業の形態としてICTを活用した授業をあげる生徒が多く、ICTに対して抵抗なく受け入れられる態度が備わっている。

(2) 指導観

既習事項である社会保障制度を概観し、その上で公的扶助についての理解をより深化するために、主体的に探究活動をさせることが本単元の大きなねらいである。もともと政治・経済に興味・関心を持っている生徒が多いクラスなので、自発的に課題を設定し、探究してくれることを期待している。また、上記の生徒観でも触れたように、ICTの活用に関する生徒の要望があるにもかかわらず、本学年は個人端末を所有していない現状がある。ゆえに個人端末を活用した授業形態には不慣れな部分も多く、ICTを活用した授業の在り方については模索している段階である。現在は職員用の端末をすべての生徒に貸与して授業を行っている。模索段階である現在、[classroom]や[ジャムボード]、[フォーム]といったツールを活用しながら授業を進めている。評価についてはルーブリックを活用し、生徒が評価の観点を意識しながら学習を進められるよう工夫している。

5 年間指導計画における位置づけ

3単位科目ではあるが、3年生は家庭学習期間があるため年間90時間の配当となっている。前期は主に経済分野を学習し、後半で政治分野を学習するという珍しい順序で学習を進めている。本校では共通テストを利用した一般受験をする生徒が少なく、大半の生徒が推薦受験という形態をとるため、11月の後期中間考査が終わった後は、受験勉強に励む期間というよりは基礎学力を担保し教養を身につける期間という意味合いが大きい。よって考査後の約1ヶ月半については教科書の第3編「現代社会の諸課題」の探究学習を進め、既習事項について学びを深める期間に充てている。

6 単元の指導と評価の計画 (全3時間)

時	ねらい・学習内容・学習活動	評価規準【観点】
第1時 (本時)	【単元を貫く問い】 今後日本の公的扶助はどうあるべきか	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【第1時のねらい】 主題となる問いに関連した適切な問いを設定することができる。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>導入：社会保障の4つの柱を確認した上で、主題となる問いを提示する。</p> <p>展開：提示された問いや各種資料をもとに、どのような問いを設定するかを議論する。 ※早く問いを設定できた班は、調べ学習に取りかかる</p> <p>まとめ：各班が設定した問いを発表する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各人が考えを自分の言葉で主張し、周りの人間がしっかり聴く態度を持つことで、班全体として活発な議論がなされている【態度】 ・主題となる問いと関連させて学習を深化するために適切な課題設定がなされている。【知識】 </div> </div>	

<p>第2時</p>	<p>【第2時のねらい】 設定した問いに対する考えをまとめることができる。</p>		
<p>・諸資料を基に、自分たちの調査に説得力を持たせる工夫をする。</p>	<p>導入：前時に各班が設定した問いの確認</p> <p>展開：インターネット、資料集、図書室の文献や新聞などを活用して調べ学習を進める</p> <p>まとめ：各班が調査の進捗について簡単に報告する</p>	<p>・様々な統計資料を有効に活用し、説得力のある説明が出来るように調べ学習を進めている。</p> <p>【思考・判断】</p>	
<p>第3時</p>	<p>【第3時のねらい】 問いに対する調査結果を自分の言葉で発表することができる。</p>		
<p>・他の班の発表を聴き、主題となる問いに対して多面的・多角的な視野を持つことができる。</p>	<p>導入：各班でプレゼンに向けた最終確認をする。</p> <p>展開：各班からの発表</p> <p>まとめ：各班からの発表を受け、今後の日本の公的扶助の在り方について、自分の考えをまとめる。</p>	<p>・各班が自分たちの調査結果について、主題となる問いとの関連性にふれながら論理的に説明することができる。【表現】</p> <p>・全体の発表内容を踏まえて、主題となる問いに対する答えを導き出すことができる。【判断】</p>	
<p>【単元を貫く問い】 今後日本の公的扶助はどうあるべきか</p>			

7 本時のながれ（全3時間中の1時間目）

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・指導方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題となる問いを確認する 今後日本の公的扶助はどうあるべきか ・ 既習事項である日本の社会保障制度の概要を復習する ・ 提示された諸資料から問いに対する自分の考えを膨らませていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画面上に主題となる問いを映し出し、全体に確認させる。 ・ 社会保障制度の4つの柱（公的扶助・社会保険・社会福祉・公衆衛生）について確認し、特に公的扶助についてはその内容にふれる。 ・ 事前に主題となる問いに関連する新聞記事やグラフなどの資料などをいくつか紹介する。
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各班で主題となる問いと関連した問い（研究テーマ）を設定する。 ・ 生徒は授業者が提示した資料やネット上の情報などを参考に、興味・関心を持ったことについて班の中で話し合う ・ 早めに問いの設定ができた班は、その問いについての調べ学習を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒がどのような点に注目し、話し合いを進めているのか机間巡視をしながら観察する。 ・ 問いが設定できた班については、適切に問い立てができているか必ず授業者が確認する。（classroomの提出フォームに入力）その際、主題となる問いとの関連性が見いだせない場合や、客観的に見て不適切なテーマ設定がなされている場合は軌道修正する。 <p>※各班には1名リーダーを設定する。リーダー役の生徒は議事進行、意見のとりまとめ等の役割を担う。</p>
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの班が設定した問いとそれに対する仮説を発表する。 ・ 調べ学習まで進んだ班は調査の進捗状況を報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その問いを設定した理由も含めて発表させる。 ・ どうすれば今後の調査がより有意義なものになるかという観点で適宜アドバイスをする。